

## 2023年12月27日 高校と地域の連携強化戦略会議 議事録

### 政策企画課

日時：2023年12月27日（水）10時から11時30分

場所：安芸高田市役所2階 221会議室

出席者：上水流委員長、木村委員、中間委員、牛来委員（WEB）、佐田尾委員、本多委員、福岡委員、永井委員、高下委員、和田委員、大里委員、桑田委員

作成者：坂本

### 事務局

ただいまから、安芸高田市高校と地域の連携強化戦略会議を始めさせていただきます。本日は年末でお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。議事までの進行をさせていただきます、政策企画課の佐々木です。どうぞよろしくお願ひいたします。はじめに、上水流委員長にご挨拶をお願ひしたいと思います。

### 上水流委員長

皆さんおはようございます。この戦略会議、2年間という予定で行っていますが、今日と3月と後2回というところで、来年度に向けてどう繋げていけるのかがポイントになってくるかなと思っておりますので、もちろんいろんな形でご意見頂戴すると同時に来年度以降の体制も見据えてどういう風に引き継いでいけるかということも、色々なご助言をいただければと思っております。よろしくお願ひいたします。

### 事務局

はい、ありがとうございます。本日の会議時間は1時間半です。終了は、11時30分を予定しております。次に資料の確認をお願ひいたします。資料1 委員名簿、資料2 短期の取り組みと成果等について、資料3 中長期の方向性の検討、資料4 中学3年生へのアンケート、それと市内中学3年生の資料を配布させていただいております。この資料につきましては、会議終了後に回収させていただきます、この会議での取り扱いとさせていただきますので、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。永井委員、高下委員は別会議が入っておりますので、遅れて参加します。また本日は、牛来委員がオンラインにて会議に参加いただいております。それでは、ここから議事に入りますので上水流委員長に進行をお願ひします。

### 上水流委員長

それでは、議事の方に入りたいと思います。まず、最初に安芸高田市内の中学校の進路希望についてご説明をお願ひします。

### 和田委員

12月が懇談の時期で、ここで最終の進路希望の決定をする、自分の受験校を決定するというところで、最終的に懇談を終えて取りまとめたものがこの資料となります。

### 上水流委員長

例年に比べてやっぱり見直すと、三次高校が19人、三次青陵が14人とか出ていますが割と毎年このくらいでしょうか？

## 木村委員

資料を配布させていただいてもいいでしょうか。本校の状況ですが、令和5年5月1日現在の中学校のニーズとか、これは公表されています。上の表の右側に「R4 中学3年」とありますが、これが去年の中学3年生です。その横にある「R5 吉田高入学者」とあり、探究科とアグリそれぞれ今年入られた人数が分かります。

## 和田委員

三次高校は例年に比べると多い数字であると聞いています。

## 上水流委員長

高陽高校も増えていきますね。これは現状こういう形になっていますよということですので、承知いただきたいと思います。

それでは、短期の取り組みの成果について参りたいと思います。前回の会議が8月4日でしたが、そこからの進捗状況について各高校と教育委員会から順番にご説明いただければと思います。

## 木村委員

情報発信のところですが、元就入城500年イベントフォトグランプリで、50件ほど応募がありました。優秀作品を選んで、道の駅に今展示をしております、見ていただいております。吉高マルシェを9月28日に実施しました。約200名来場がありまして、新聞記事にも掲載いただきました。10月15日は道の駅でみつや学フェスタを開催しました。こどもを集客すれば保護者が一緒に来てもらえるんじゃないかということでキッズイベントを行いました。また生徒の研究発表もやりました。新聞にまた取り上げていただきました。次は、本校アグリビジネス科が作ったチンゲン菜が市内の給食に使用されました。また給食センターの方に栽培の様子取材をしていただき、動画を作成いただき各教室で流してもらいました。本校神楽部が宮島で公演をしました。中国新聞にも取り上げていただき、かなり好評だったと聞いております。本校の隣にあります吉田小学校の児童と本校のアグリビジネス科生徒が5月に植えたサツマイモを収穫し交流しました。本校神楽部が11月3日THE TIMEで全国放送されました。変わった取材方法で、テレビ局が来るのではなくて、生徒たちが自分たちで動画を取ります。それをテレビ局へ提供して編集いただく形でした。オンライン会議で、テレビ局の方が動画の撮影方法をディスカッションしていただきました。探究科の生徒が吉田・向原中学校にPBLの指導で訪問しました。12月13日に学習成果発表会を行いまして、市内多くの中学校の生徒に見ていただきました。資料に記載していませんが、11月26日の市民文化祭で、本校の生徒がファッションショーを行いました。最後にご存じかと思いますが、サンフレユースがプレミアリーグWEST優勝、ファイナルで日本一を懸けて戦いましたが、疑惑の判定もあり悔しい思いをしました。その前にはU-17ワールドカップに2名が出場しまして、大活躍してくれました。国際的にもそういう活躍する生徒がいます。なかなか、プレミアリーグは選手権みたいに有名ではないですが、サッカー界では本当にすごい大会で喜んでいきます。

中高連携で部活動の合同練習は前回やらさせていただきました。高校の教員が各学校へ行き、中学3年生の担任或いは進路指導の先生に説明をさせていただきました。生徒同士の交流が、探究科の生徒が授業でのアドバイス等を行いました。市外からの生徒確保については、12月8日に入試説明会を本校で行いました。市外の中学校の先生にも来ていただきました。以上となります。

## 上水流委員長

ありがとうございます。質問は最後にまとめてお聞きしたいと思います。続いて向原高校よろしくお願いたします。

## 中間委員

まず、オープンスクールの2回目を9月30日に実施させていただきました。1回目は授業体験、2回目は部活動体験をメインに据えながら実施させていただきました。

「変わる向原高校」で、今年度に入ってから同窓会の協力を得ながら9月から無料塾を開始いたしました。英語と英会話と数学ということでとりわけ英語数学については、進学したい生徒にもいるし、授業の基礎の基礎ができていない生徒もおりますので、もう同じ部屋にはおりますけれども完全な個別指導で、生徒の学力支援というところを行っております。ALTの先生もたまに参加をいただき、英会話なかなか参加はしているけど、人前で英語しゃべるのがちょっと苦手っていう子も中にはいるので、スムーズな会話にはなっていないように、そんな気はしますがただ英会話については人気が高いかなと思っています。国際交流協会とも連携をさせていただきながら多文化共生に関わる取り組みというのを、これ次年度以降もちょっとメインに据えてやっていきたいと思っているので、今年度もいろいろと連携をして行っております。これは次年度からですけれども、下宿を用意いたしまして、下宿のPRというところも行っております。下宿をしている生徒が土日になんか何かを活動していくかというようなプログラムを、今関係のところと協議しながら整えている段階です。あわせて、これも次年度からですけれども企業の方によるデジタルスキル育成に関わる講座の設置ということで、次年度から複数の講座が設置できるように、同窓会そして企業との連携をして詰めている段階です。

情報発信についてですが、地域の催し事には参加をさせていただきながら、本校の取り組み等展示をさせてもらって、スペースをもらったりして情報発信とかっていうのもしてきました。あと中国新聞等の活用っていうのも、記事に取り上げていただき意識をして進めて参りました。

中高連携ですが、卓球部の生徒同士の交流、合同練習ができればいいなと思って桑田校長先生ともいろいろ話して連携をとらせていただいておりますが、本校の人数の減少に伴って卓球部の活動が成立しない状況で、やむを得ず断念をいたしました。もしも年度以降、部員が1人でも2人でも入ってですね、活動ができるような状況になればまたぜひ相談を持ちかけていきたいなというふうに思っております。卓球に限らずというところでやっていきたいと思っております。その代わり教員同士の交流ということでお互いの授業をそれぞれ行き来して見させていただき、そのあと協議というような形で中高の教員と一緒に協議をするということで今2教科させていただきました。今年度はもう残り少ないですが、できればもう2教科ぐらいできればいいなと思っております。

市外からの生徒の確保ですけれども、下宿しながら通えますという情報提供っていうのをちょっと意識して幅広く行いました。三次・広島市・東広島市・呉あと世羅町の一部にも今年度行かせていただきましたが、動いた割にはあまり成果が実感としてないかなという感じです。2名くらい興味を持っていただき、問い合わせもいただいておりますが、最終的な受験になるかどうかというのが分かりませんので、様子を見ているところです。以上です。

### 上水流委員長

ありがとうございます。最後に教育委員会の方からお願いします。

### 和田委員

中高連携の部分ですが、今両校の校長先生が仰ってくださいましたので、特段そのことについてはないです。

### 上水流委員長

ありがとうございます。それではこの部分についてご質問含めてお願いします。中高連携は徐々に進みつつあるみたいな理解でよろしいでしょうか？

### 木村委員

吉田高校と吉田中学校の先生と、生徒指導の先生が交流させてもらっています。今度、吉田高校の授業と校内を見てもらう企画はありましたが、日程調整が難しく来年度に持ち越しかなと思います。ただ、先生方の交流については、実施しております。

### 上水流委員長

要は、吉田高校や向原高校を勧めるというところがこの委員会としての最終的な狙いということですね。

### 和田委員

勧めるのは中学校側なので、まずは先生方が地元の高校生の理解が十分じゃないから勧められないところがあります。

### 大里委員

今年よかったのが生徒同士の交流という、総合的な学習の時間に高校生が中学校に来てくれて実際に中学生にアドバイスをしていただきましたが、非常によかったなど。PBL というかそれぞれ研究していますが、探究科で学んだ生徒がそれについてアドバイスを生徒 1 人 1 人にしていただくのは、ぜひちょっと続けていきたい。

### 木村委員

これにつきましては本校の生徒が行って、そういうアドバイスをするっていうのもまた非常に大きな学びになりますので、これもウィンウィンの関係でいけるかなと思っています。生徒もそういう活躍の場を与えていただけるとありがたいし、生徒の教育的な観点からも、成果があるな。それを通してちょっと成長が見えます。

### 大里委員

実際中学生も憧れというか、高校生になったらこのようになるのかと、部活とかその授業の部分で。そう思っている生徒とかちょっと何人かいますので、意味があったかなと思います。

### 中間委員

生徒同士っていうのはやっぱり大きいなと思いますが、それが今十分できてないので次年度に向けて桑田校長先生と連携を取りたいと思います。

### 上水流委員長

ありがとうございます。そういう意味で言うと、中高連携はここで進めてきたことの 1 つなんだと思います。個人的には向原高校さんのニュースは新聞等でも見ているので、今年度から始まっているので、来年度以降に記述していけばいいなと正直思っていました。この無料塾は来年度も続くということですのでよろしいでしょうか。

### 中間委員

その予定で進めて行きます。

### 上水流委員長

今年度生徒募集にということではないかもしれませんが、そういう取り組みをされてるのは読みながらいいなと思いました。

### 桑田委員

無料塾の評価は、中学校の保護者には幾らか良い感じですが、向原中学校の生徒で、向原高校の進路希望者は4名です。3年生が0人、2年生が3人、1年生が1人で、年度当初は0人でした。向原高校さんの無料塾と下宿の新聞記事を全学年クラスで紹介しました。そういった中で学力的に心配な生徒が向原高校に行って無料塾もあるので保護者の方も学力を付けることが可能なんだという認識を持たれたのがこの4名に繋がったんだと思います。

### 中間委員

学校内の1番目立つところに掲出いただいております、大変ありがとうございます。中国新聞の効果をより実感しました。

### 上水流委員長

そういう良い取り組みが安芸高田市内の様々などで見えるような状況が作ればいいのかという風には思いました。その認知度を高めていくためにも、皆さんのお力添えを頂きながらできればいいかなと考えております。

### 木村委員

無料塾の英会話とか、同窓会の方々が教えていますか。

### 中間委員

実は、英語・数学は同窓会で本校のOBの方です。元高校の先生です。英会話については、安芸高田市の会計年度任用職員の方で、日本人の方です。本当は外国人の方に講師としてやっていただきたくて探しましたが、なかなか見つからなくて、講師のお知り合いの外国人の方に一緒に来てもらってやってもらうとかでなんとか凌いでいます。

### 上水流委員長

その方自身は、海外での生活がありますか。

### 中間委員

海外での生活がありました。英語ペラペラです。

### 上水流委員長

英会話が1番人気なんですよ。

### 中間委員

数学が人数的には1番多いです。英会話も多いですが、人気です。

### 福岡委員

無料塾の英語と数学の先生は何人いらっしゃいますか。

### 中間委員

1人ずつです。教室で個別に対応している形です。

### 本多委員

下宿について、今来年度にかけて下宿の活用の目途が経ったのか、それとも受け皿として下宿の部屋を確保したかが気になりました。

### 中間委員

とりあえず確保しました。この部屋で生活することは可能という状況に何とかすることが出来ました。後は、交流活動とか土日のプログラム作成というのをしております。

### 上水流委員長

そのプログラムは下宿している生徒だけですか。

### 中間委員

下宿している生徒だけでなく、他の生徒も大丈夫です。

### 上水流委員長

そういう形で安芸高田市内外含めて広がっていくと良いと思います。

続きまして、資料 3 中長期の方向性の検討ということで、事務局の方からご説明をお願いします。

### 事務局

政策企画課の戸田でございます。資料 3 の説明をさせていただきます。中長期の方向性の検討ということで、この取組の目標としては地域と連携した学びを通じて、将来安芸高田市に貢献しようという人材を育てていけたらということで定めさせてもらってずっと長い目で見た取り組みを行っていかうということで上げさせてもらっています。

戦略会議としましては、今年度で一旦協議を終えるわけですが、次年度以降にも高校と地域、安芸高田市との連携内容を 1 つ計画的なものにして取りまとめていきたいと事務局としては思っております。資料にない部分として口頭で説明させていただきますと、今年度 3 月で戦略会議のまとめ。この 2 年間の協議の取りまとめを行えたらと思っております。その際には 2 年間の協議の状況、そして数年先に向けた市と高等学校との連携の在り方というのを、計画的なものにまとめていきたいと思っております。

差しあたって来年度予算の状況ですが、昨年度から始めた高校への応援補助金、学力向上に向けたスタディサプリの補助金、そして 12 月の議会で計上しました生徒が決める補助金の 3 本立てで計上しております。最後に、地域おこし協力隊という人材を迎えることができるということで、予算計上に伴い今募集を進めている状況です。

資料についてですが、委員の皆様からこれまでいただいたご意見を表の下段に設けさせてもらい、このテーマに沿った取り組み、各高等学校の取り組み、先ほど少し概要を申しました市の取り組みを記載させてもらっています。幾つかこの会議で議論いただいたことが形になりつつあるのかなというのがありますので、ご紹介させていただきます。まず①学力の向上ですが、これまで会議で出た意見では、都市部と地方部では塾などの関係でどうしても差がついてしまうことや進路によって学びたい状況が違うという意見がありました。そういった中でオンラインであれば見たい時に学べるよねという意見も出ました。そうする中でスタディサプリを導入させていただくことができ、それを今後どのように活用していくか、有意義に使っていくかというのが取り組みの 1 つのテーマとして挙げさせてもらっています。②高校生自身が高校の魅力化を検討についてですが、吉田高校でいうと、サンフレッチェ広島ユース生がいてくれるというのは大きな高校の魅力であることから、どのような学びの機会につなげていけるかということ、両校共通の補助金の中で生徒達が考えていけるような補助金内容、色々な手法はあるにせよ高校生のアイデアを何とか形にできるような応援ができないだろうかという意見が出ていたかと思っております。そうする中で今年度はサンフレッチェ広島の試合観戦に吉田高校全校で応援に行ってみようというお話をいただき実現しました。来年度は向原高校も一緒に行けないかということで議論をさせてもらい、何とか実現に向けて行けたらと思っております。③学校が希望する地域連携の学びのサポートですが、これまで出た意見ではやはり高校と地域を繋ぐ人材が見てくれると非常に取り組みが助かるという意見でした。今募集しています地域おこし協力隊を各高校に配置できたらと思いきり来年度予算に計上しておりますが、これは希望する方がいて初めてというところもありますし、面接の結果も伴ってくるところでありますので

確実に配置できるかといことがありますが、そうした準備はしております。事務局からの説明は以上です。

### 上水流委員長

ありがとうございます。3つの項目の説明をいただきましたが、各高校から追加の説明等ありましたらお願いいたします。

### 木村委員

コーディネーターのところはもし実現できれば大変ありがたいと思います。どうしても外部連携で教員が動いているので、その度に授業が自習になっているので、そういう方がいてくれたらと思います。

### 中間委員

スタディサプリ導入に関わっては色々ご支援ありがとうございます。8月途中から活用し始めて毎月データを確認していくと、11月時点で段々利用が下がってきている、下降傾向であるということが数値としてはっきり分かりました。やはり活用して生徒の学びへの支援、力を付けることを考えた時にまずは活用させないということで、新たなプロジェクトチームを作り、リクルートの岡本さんにも来ていただきながら一緒に有効な活用方法に向けて取り組みをスタートしました。12月が若干上向いたというデータが出て来たのでひとまず安心しましたが、せっかくこうやって支援いただき導入しておりますので、生徒の力に結びつくような有効な活用方法を引き続きプロジェクトチームで検討したいと思います。そしてコーディネーター役は本当にあれば非常に助かります。来年度からどうなるか分かりませんが下宿をどのように進めていくか、家庭との連携もありますし生徒指導や病気になった時の対応とか、そういった部分を考えて時にコーディネーター役になられる方の勤務時間との兼ね合いも当然ありますけれども、そういった繋ががあればいいなということで希望はしております。ただ現実、勤務時間との絡みで難しいかも知れませんが、動きとしては本当にありがたいなと感じております。

### 上水流委員長

ありがとうございます。それではこの部分について委員の方々からもご意見ご質問頂戴したいと思いますが、先にですけど地域おこし協力隊は各校1人ずつってということで、2校に1人ですか。

### 事務局

各校1名ずつに構成されています。

### 木村委員

地域おこし協力隊はその守備範囲ごとに交渉していらっしゃる形ですか。しょうがないと思いますが、学校としては結構その守備範囲が広い方が、学校では様々なことが起こるので、地域連携のことをメインとしながらも、ちょっと生徒対応をお願いしないといけないとかですね、ああいうところがあってやっていただけたらありがたいと思います。ただ職の設定上、どうしてもこういうところは、難しいことがあるだろうと思いますが、なかなか課題のある生徒もおる中ですので、ちょっと都合のいいことばかり言いますが、つけていただければ大変ありがたいです。

### 上水流委員長

高校と地域もすぐポイントする議論ですよと書いてあって募集しているという話ですよ。

### 事務局

その通りです。そのできる内容について、詳細にあたっては協力隊の意向を確認しつつ、ここの特色部分、どの部分に入っていただくかというのは、改めて協議をさせていただきたいと思っております。

### 上水流委員長

ありがとうございます。まずはとにかく隊員が見つかるってことが第一ってことですよ。来年度以降ということで3月の頃にはだから隊員がいるかどうかわかっているということですね。他にいかがでしょうか。

### 佐田尾委員

③学校が希望する地域連携の学びのサポートの下宿ですが、これは日々の食事とか公的な制度として、その過程に対して補助金が出るとかそういう仕組みはどういう風になっていますか。

### 中間委員

食事については朝と夜をつけるようにしていて、昼食は実費でお弁当を学校で注文しようと思えます。だから、食べた分だけは支払っていただくということにしています。月の下宿代を6万円、県内の各学校例えば佐伯高校とか、状況を見させてもらって下宿代を6万円で設定をしてその内の3万円、半分を同窓会の方から支援をしていただくようにしております。従って、下宿する生徒の保護者の負担としては、3万円+お昼の弁当代というところで調整をさせていただき、各中学校の方へは説明をしたりしている段階です。

### 佐田尾委員

朝と夜の食事は下宿先が提供するということですか。

### 中間委員

はい、そういう風にお話しました。若い人の食事を作るということはすごく嫌がられます。よう作らんと言われますが、そこを何とかお願いしております。

### 佐田尾委員

例のホーユ一、寮の食事の問題がおきたら、なかなか給食の単価の問題は難しい。材料費が皆上がる傾向に、食べる量も多いとなると1年目はできたけど、2年目はどうかと。その辺はどうですか？

### 中間委員

見直しをする必要が生じる可能性は十分あります。

### 上水流委員長

スタディサプリの利用率が下がってきたというのは何かこう要因があったっていうか、生徒が飽きてきたみたいな感じですか。

### 中間委員

スタート時点では、結構いろんな生徒がやってみるところでしたが、10・11月になるに従って下降傾向になりました。勉強がどうしても苦手な子っていうのは、どうしても鼻遠ざかっていきますし、今まで使っていたような子もこちらからの十分な働きかけっていうのがなくなってしま

うとか少なくなってしまうとだんだん使わなくなる。でもこれじゃいけないだろうというところで、朝ショートホームルームで週に2日間はスタディサプリを必ずショートでやる、あと授業の中での活用方法というところで、最初の10分間とかちょっともう使う場面を設定して、活用に向けて各教科協力してくれというところでスタートした結果、12月はちょっと上向きました。たださっきも言いましたように、時間がなかったらそれでいいかというところもちろんありますので、効果的な活用というところはさらにちょっと詰めていかないといけないなという風に思っています。

### 上水流委員長

生徒自身がだからやっぱりそれを使って、学びが伸びているとかそういう実感を得ていくということになっていかなきゃいけないですよ。

### 中間委員

まだそこは十分、踏み込めてないと思います。本校では学び直しみたいなのを中心に使わせてもらっています。

### 木村委員

情報の授業というのはちょっと意味合いが違いましたね、再来年度から大学入試の共通テストのところで情報Ⅰが出てきます。本校は情報の専門の先生がいません。数学の先生や他教科の先生が情報の免許を持っているので情報の授業をちゃんとしてくれています。情報専門の先生がいませんので、その情報Ⅰの共通テスト対応とかこのスタディサプリが役立つじゃないかということで、動画等見ながら勉強していこうという方向で2月以降使っていくと。あとは冬休みの課題、夏休みの課題も活用しました。一番使いやすいのが課題の所で、生徒も非常に使いやすく、いわゆる昔のドリルのように単に作業が終わってしまうようなものじゃないというところでいけば、活用の意味があります。

### 福岡委員

もしイメージがあれば教えていただきたいのですが、③コーディネートする人材で地域おこし協力隊に担っていただけたらとありますが、今の段階でこういう授業の枠で関わって欲しいとか、こういう時間で関わって欲しいなみたいな、具体的なニーズとか枠みたいなものがあるのでしょうか。それとも、まだ今から検討する段階なのかどちらかをお尋ねいたしますか。

### 中間委員

具体的と言われるとちょっとないのですが、そういったコーディネートをお願いしたいのは先ほど言いました下宿のこと。それと次年度から本校がスタートしようとしている企業によるデジタルスキル作成の講座等の企業とのパイプ役、それと総合的な探求の時間の中で行おうとしている地域連携によるプロジェクト型の学習、そういった部分について学校と地域の講師の方との間に入ってパイプ役としてお願いしたいなど。なので、具体ではないですがイメージとしてはそういったものを考えております。

### 木村委員

吉田高校では先ほど今年度のPRの取り組みとかいろいろ話をさせてもらいましたけども、その外部との連携のところがたくさんあります。例えばアグリビジネス科でしたら道の駅のベジパークとか、実際の給食へ食材を卸すにしてもベジパーク経由です。或いは小学生との連携や道の駅でのイベント、こんなにも間に入るものがやっぱりあるわけですね。それを教員が全部やっているの、連携会議がありますが、定期的に授業を抜けて実施するわけですのでそういうところもお願いしたいし、もう1つ総合的な探求の時間で9つのゼミがあってその1つが地域創造ゼミで、フォトグランプリとか取り組みを行っていますが、それぞれのゼミでその年ごとに何かやろうというときにや

っぱり外部との連携の機会を探すところから始まります。今年で言うと自然探究ゼミが竹林の再生の取り組みで市の方で繋がりがありましたので取り組んでいます。それぞれのゼミでどうやって外部と繋がってやっていくかっていうところで、そういう人材がいればありがたいです。

魅力の発信ということでは、各中学校に教員が回っていますが、そこにこの人材が入っていただきたい。結局教員が行ったら授業が実習になってしまいます。

### 福岡委員

9つのゼミについて、必ずしも安芸高田市内ということではなくてもっと広い範囲もありえたんですよ。

### 木村委員

それは話によってはあると思いますが、今は基本地元ですね。移動もありますし、市外から講師を呼んだりすることはあります。

### 上水流委員長

少し話が変わりますが、先ほど言った三次高校・三次青陵は人数が非常に多い。高陽も多いですが。特に三次は増えたという話で、中高一貫でもありますが、三次青陵はなにか惹きつけるものがあるんですかね。三次青陵に行きたがるのは何ですかね。

### 大里委員

元々三次工業という工業系の高校です。ロボットコンテストとかプログラミングに興味がある子は選択しますね。

### 上水流委員長

そういう意味でいうと、吉田高校・向原高校とはちょっと方向性が違うんですね。三次高校はどうでしょうか。

### 大里委員

吉田中学校は例年1~2人が選択します。例年並みですね。

### 桑田委員

向原中学校は、最近では0人でした。一時期は5人くらい行く時期もありました。今年度希望している子は部活動(剣道)の関係で、三次高校でやりたいという思いを持っていました。北部全体を見た時に、昨年度三次高校の倍率が若干割れた反動で今年は三次高校が多いというデータが出ています。

### 上水流委員長

ある意味この三次高校が増えているのはそういうような反応があるので来年度は減るかもしれませんね。

### 桑田委員

今年多かったら多分来年またちょっと減る可能性はあるかなと。広島市内の方で、安古市とかでも定員割れた翌年がぐっと増えたりしている時期もありました。

## 本多委員

甲田には JR、高宮・美土里には高速バスがあり、通学方法は揃っている。逆に吉田だとバスがあんまりなかったりという問題があります。そういった問題と中高一貫で高校受験を気にせずに高校進学できる。+高宮・美土里・甲田で三次市にお勤めの保護者の方が一定数おられるという部分もあるかなと。

## 上水流委員長

交通に関してはずっと問題になって来ているところですので、それは市の全体の交通体系をぜひ見直しをお願いしたいと思うところです。

## 木村委員

あとは中学校の個別の状況になるかもしれませんが、部活動とかで私学の方へ行っているのかなと、私学の顔ぶれを見たら思います。

## 上水流委員長

意外と通信高校が9名もいるんですね。

## 大里委員

不登校が課題です。毎日学校に通うというよりもということを選択されています。

## 中間委員

吉田中学校さんの状況を教えて欲しいんですけども、お話できる範囲で構いません。加計高校に2名志願を希望しているというところで、理由がもしも分かればお話できる範囲でお願いします。

## 大里委員

1名の子は部活というふうに聞いていて、もう1名の方は向原高校と悩んでおる子で、寮も考えておられる過程で、加計の方に家の方の知り合いがいらっしゃって、加計高校の行事に何度か参加するというので、それでちょっと興味を持ったそうです。

## 上水流委員長

来年度以降スタディアプリ、それから高校に対する補助金、生徒が決める補助金が入ってくる中で、本来は生徒さんが行きたい高校に行ってもらうのが一番ですけどこの会議としては、こうやって他の高校にいらっしゃる生徒さんが、なるべく吉田高校さんとか向原高校さんに行くようにしていくというのが委員会の目的でありますので、それぞれの補助金が他の高校よりも魅力的に見えるのかという話なのかなというふうに思ってますね。保護者から見るとしっかり勉強をさせられる環境っていうのは本当に重要なんだなというふうに、改めて高校ってやっぱり勉強する場所だなと思ったところなんですけども。そういう意味でスタディアプリ、無料塾とか生徒さんが勉強できる環境をきちっと作っていくことはやっぱり保護者に対してのアピールになっていくのかなと思いました。そういう観点で見た時に校長先生の方からそういう観点で見たときに、この三つの柱を来年度以降やっていくにあたって本校の魅力アップということで、こういうところにやっぱり力を入れていくことが必要なんだろうなというふうに実感される方がいればと、今交通の問題出ましたが。

## 木村委員

中学校の校長先生にお聞きしたところでは、交通の問題として例えば三次青陵も方とかだったら JR であっちへ行くので、吉田高校へバスで通うというのは難しいところがあるんだろうと。うちは今ここで50人という数字が出ておりますが、ここにサンフレッチェ広島ユースの方が10名ちょっ

とは加わるとは思いますが、この数字だけ見たら探究科3クラス120名定員数、80名以下になってしまうので教員も減ります。そうすると総合学科ですので多くの選択科目があるということで、多様な進路に対応するために、就職から国公立の大学までですね。そのための選択科目を狭めざるをえないようなことにもなりますし、さらに言えばその探求活動で9つのゼミがあると言っておりますけれども、9つのゼミに分けてしまうとそのニーズもまた減ってしまい学校としての体力はかなり削がれることになるだろうと。今年度と同じような活動ができるかどうかちょっと心配になってきます。アグリの方でいけばここで行かれる4名ですけれども、10名を切ってくると学科の存続自体が壊れてきます。そこら辺も含めたらかなりの危機感、持っております。今年度かなり本校としてはPR活動、力を入れてやってきましたがなかなか届ききっていないということで、教諭も生徒もまあまあ手一杯です。毎週のように何かしら動いていますし、今のままではちょっとしんどいと思いますので、何かこう変えていかないといけないですね。

### 上水流委員長

今状況をご説明いただいたんですけども、三つの支援を市からされる中で来年度以降の取り組みに繋がっていくとは思いますが、向原高校を割と心配してきたこの2年間だったと思っています。80名を切っていくような状況が、ある程度想像できるっていうことになってくると、やっぱり探究科っていうことをどう考えて、アグリもですが私の中で予想外の展開となっているところがあります。

### 中間委員

本校が今年意識をしてきたのは普通科県内たくさんありますので、普通科の中でどうやって他校の普通科との差別化を図っていくかっていうところをちょっと意識してやって参りました。学校の特色を一番よく表すものとして、やっぱり教育課程っていうのがあろうかと思っています。実は次年度に向けて単位数をぐっと減らして、極端に言えば午後から全部開けて部活動やったり地域連携やったり、塾をやったりと他と差別化を図ろうかなと思ったんですがその教育委員会から駄目って言われました。どこで差別化を図っていくか、普通科としての通常のカリキュラムはやっていくんですが、やっぱり企業等で必要とされているデジタルスキル、しかも即戦力になりうる、就職者も多いですから、そういったところをちょっとできないかということで同窓会の支援を受けながら、企業と繋がることができたというところでちょっと次年度やっていく予定です。とはいえやはりやっぱり学力向上とかそういった部分が高校として、置いといたら何もありませんので、無料塾やっただいておりますけれども、これは同窓会の方がやっただいてるので、本校の職員のところでこれまでやっている補修部分をさらに、もうちょっと質を高めてやっていこうと思います。なかなか差別化を図りたいと、進めてきましたが結果的には差別化が十分図れないままきておりますので、差別化を来年度意識してやっていきたいというふうに思っています。

### 上水流委員長

いずれ、そうすると様々な努力も含めてそうですけど、今言われたデジタルスキルとか、学力向上とかに活用できるような方向で支援を使われていくっていうようなことですね。生徒自身が何かしていくというのは別にあるかもしれませんが、それも含めてってことでございます。

あと吉田高校さんの場合、逆にこういう質問が可能かどうか分かりませんが、探究っていうのは、分かっていくくなって逆に普通の方がよかったんですかね。

### 木村委員

文字自体難しいですね。ただ、総合学科としての探究ですよ。総合学科で探究科だからこそ今の活動ができるわけで、普通科だったら同じ活動は出来ません。これぐらいのPRとアピール、例えば市内のいくつかの学校でここまで短期的に実施するのは、よっぽど力入れてやらないと、時間的

な制限があるので。吉田高校はその探究科だからこそ総合学科ですけど、時間的な余裕があるわけじゃないですが、ゼミ活動で動ける環境で、加配と言いまして教員も増えています。探究科という言葉自体浸透していないことが重々分かりました。いろんな所で説明はしています。

### 大里委員

そのために今年度は3年生の先生を中心に、探究科っていうのを正しく保護者に説明するために来ていただき、あと保護者会議が毎年ありますので、探究科っていうのはこういう課なんだっていうのを周知しています。吉田町民の保護者の理解はしていただいているかなと思うんですよ。

### 上水流委員長

当然ながら今吉田町内の方はってことですけど、将来的に安芸高田市の人口の減少も考えた場合、市外から来てくださる方も視野に入れないと、120という定員・2クラス以上維持していくことをクリアできない。探究科が何なのか、進学もしっかりできる、国公立に合格することもかなり求められていると思いますので、進学に対しても探究科の良さが市外にも伝わってこない地道になるのかなと正直思いました。

### 木村委員

まだ浸透しないということでどれが足りないかっていうのはあると。努力というかその工夫が。一生懸命やっていますが、探究自体は非常にキーワードでもあるので、今の教育関係の中では探究っていうこと外してはですね、その生徒が学んだことを活用する場面というのは必ず必要なので。大事なキーワードですけども、じゃあ何をやるかというところでいったら、なかなか難しい。教員もどうやっていけばいいか、難しいです。

### 上水流委員長

その探究科が何に使っているかって言った時に向原高校が違うような形もやっぱり必要だろうなと思っていてやはり、探究科に対するやっぱり魅力というかそこに、要は市外の方も目を向けていただくっていうことも含めて必要だと思います。生徒が決める探究科をぜひPRしてですね、これがいろんな中学校で見てもらえる様な動画になるとかですね。

### 和田委員

安芸高田市内の小学校・中学校はPBLで1人1探究をします。なかなかハードル高いですが、本当にどんなことでもいいからやろうという風にやっているんですよ。何遍も繰り返しながら探究というのはどうやっていくのかっていうことを今やっているところです。今年、吉田高校の生徒が吉田中学校や向原中学校に行き、一人一人が個々にやっている探究に対してアドバイスをしましたが、これはかなり立派でした。単純に中学生がすごいと思うんじゃないかなと。自分には全然ないアイデアを高校生は出してくれていて、それも偉そうに言うじゃなくて、あなたのやりたいことは何だろうみたいなことをちゃんと聞いてくれて引き出すという、その関係では絶対必要とするコーチングを高校生がやってくれていました。あの姿でもっとうまく交流できていると、探究がもっと面白いというものを中学生や高校生が味わうことができているとあの凄さがもっと分かるんじゃないかなと思います。本当に立派だったです、高校生たちのアドバイスというのが、大人が言うのとまたちょっと違う感覚だから、子供にとって本当に有効だなと思いました。やっぱ義務の間で探究の良さみたいなことをもっともっと実感できることを、小さい頃からやりたいなということを今思っているの、それが繋がらないかなと、今お話を聞きながら思いました。

### 上水流委員長

ありがとうございます。ぜひその探究アピールっていうのを広げていけたらと思います。続いて、

資料4 中学生アンケートの実施についてご説明をお願いします。

### 事務局

それでは資料4の説明をさせていただきます。中学校3年生に昨年度末、今の高校1年生の皆さんにアンケートを実施させていただきましたが、今年度も今の中学校3年生に引き続きアンケートを実施させていただきたいと思っております。方法としましては、進路が決まった段階である3月上旬かと思っておりますが、グーグルフォームのアンケートフォームを用いまして、生徒に校内でご回答をいただく時間を設けていただけないかなあというふうに思っております。設問内容は、昨年の内容と同じ内容で進めていって、昨年と今年度との比較、単年でそんなに差は出ないかもしれませんが、中学校3年生の皆様は3月上旬にこのアンケートを実施して、3年生の意向を確認をしていけたらということを取り組みたいと思っております。以上でございます。

### 上水流委員長

ありがとうございます。この件はデータを積み重ねていくことが大切だと思いますので、ぜひご協力をお願いすることでよろしいでしょうか。ありがとうございます。これは今年度もまた実施するというようお願いいたします。

最後に今後の取り組みについてということで、意見交換をお願いできればと思いますが、事務局の方からご説明をお願いします。

### 事務局

基本的な方向性の検討の冒頭にも少し話させていただきました。今年度3月をもって会議を閉じさせていただくと。計画書的なものに今後の取り組みをまとめさせていただきたいということ。そして、予算の状況が補助金と協力隊を最初に申させていただきます。今後の取り組みの具体としまして事務局サイドとしましては、高校と中学校と具体的な取り組みが始まっている。内容によっては、高校中学市教委との協議の形というのをを出していただくことにしていけたらという思いを持っております。地域おこし協力隊が導入できれば、より綿密にいろいろ協議をさせていただくような場が必要になってくるかなあということも思っております。先ほど申しました4社、場合によっては、市と各高校で定期的な会議を続けていく形が良いイメージかなと思っております。この2年かけていろいろ協議を積み重ねていただいた内容をより次へのステップアップ、レベルアップにつなげていくために、是非とも3月もそうですけどもこの場でいろいろな方向から委員さんにご意見をいただけたらなと思って少しお時間をいただきました。よろしくお願いいたします。

### 上水流委員長

ありがとうございます。

今出ましたように、来年度以降のことも組み込みながらのちょっとご意見が出たんですが、この会議自体はこれでおしまいです。少なくとも今回中学校、教育委員会の皆さんとの繋がりには維持しながらまたいろいろ情報交換や協議できればと思います。学校運営協議会があると思いますが、市の方も参加されていますか？この会議と2重ともいえるところですが、そこがうまく連動するような形でそれぞれが機能を果たしながら展開できると良いなと思っておりましていかがですか。

### 木村委員

吉田高校で言えば、この協議会に市の方も出てくれているし、中学校・小学校・JAの方からも参加いただいています。まさに探究科で繋がっている所のメンバーに参加いただいています。

### 上水流委員長

分かりました。その辺が少し気になって2重じゃないですが、そういうようなことだといけないなと思ったので、その辺がうまく違った役割果たしながら連動しながらやっていければいいなとい

うふうに思っております。

### 中間委員

うちで言えば運営協議会も当然ありますけど、学校活性化地域協議会、魅力特色づくりの会なんですけれどもそういったところも行っております。当然内容的に、学校の存続っていうようなところがメインな話題になって重なる部分も当然ありますけれども、それぞれメンバー、全く一緒じゃないのでいろんな視点からの意見がいただけるというところで、そういった会があるというのは非常にありがたいというふうに思っています。

### 上水流委員長

ありがとうございます。牛来さん何かあればお願いします。

### 牛来委員

まず先ほど吉田高校から情報発信たくさんされてきて、でもなかなか結果にすぐ繋がらないというところがあった。SNS等で発信されていると思っているんですが、SNSって「マラソン」って言われています。要は、一瞬にしてバスって人気成功モデルを作るのは、それもいるかもしれませんが、そうではなくてやっぱり集客成功モデルを作るっていうところを目指すべきで、その収穫集客成功モデル作るには、突然何か突発的にヒットするというよりも、本当にコツコツ情報発信し続けるっていうことがとても大事で、担当者すれば成果が見えないとしんどくなるだろうと思います。弊社の中でもそうです。じゃあどうやっているかっていうと月に1回 Google Analyticsでの訪問者の数や昨対・前月に比べて数字がどう変化したかをみんなで確認しています。改善すべきところが見えてくるかもしれないし、みんなでよかったねっていうふうに褒めあうっていうところで、担当者もモチベーションに繋がると思います。1年、これまでもやっておられたと思いますけれども、続けていくことで成果を終えられるということがまず一つお伝えしたかったなということ。とはいえ戦略が必要だと思っていて、どこを重点的に伝えるか、今日活動いろいろご報告いただいて、すごいこんなことされていて素晴らしいなと思って、頭が下がる思いで聞いたんですけども、戦略としてどこをアピールしていくかっていうところを明確に発信する必要があると思っています。例えば向原高校さんであれば、英語力なら向原高校だよねみたいな、今からまた来年度に向けて続けていかれる活動の中で、自分たちが発信しているということだけでなくやっぱ周囲からそう言われるようになるまで、コツコツ頑張ると同時にやっぱりそれを、例えばキャッチコピーのところで、もう必ずウェブサイトでも紙でも学校の説明会においても、どんな場面においても、うちはこういう特徴がある高校ですっていうのを、他校と似たような表現ではなくて、他校と違う表現の仕方例えばウェブサイトでいうと、5秒で引きつけるキャッチコピー。要は引きつけないと駄目です。綺麗な言葉を連ねるのではなくて、必ず中学生がこれ聞いたならなんか行きたくなる、興味を持つみたいなキャッチコピーを、特徴を入れた上で持っておく。これをいつでも発信していくってところが大事だなっていうふうに思いながらお聞きしていました。先ほど探究の意味が、ちょっと伝わりにくいよねみたいなお話も、これは探求科ってどんなところ、何するところみたいなのを5秒で引きつけるキャッチコピーで伝えるとしたらどうなんだろうということ、みんなで考えてそれを必ず使っていく。その前にそのコピーがあった上で、他校との違いをいくつか並べて、伝えることがそのあとで、具体的なことをいくつか、短い文章で伝えるってところが、我々だったらもうそれは戦略的な支援の仕方だったと思いながらお聞きしていました。

### 上水流委員長

ありがとうございます。マーケティングの観点から非常に有効的なアドバイスをいただいたかなと思っております。

## 永井委員

教育委員会としてではなくて私個人で考えておることを三つほどお話しさせてもらいたいと思います。1つは、高校との繋がりの中で先ほど和田参事が言いましたが、小学校中学校の探究学習PBLをさらに充実させていこうということで、県内的にも1人1研究というのは珍しいので、ぜひこれを進めていきたいなというふうに思っています。来年度は市内小中学校全体の発表会をやるということで今検討しています。先ほど和田の方からもありましたように、アドバイザー的な形で、高校生とかと関わってもらおうということができないかなというように思っています。2つ目は、高校の方は随分中学校への説明とかいろいろな取り組みをしていただいております。ただ、日常的な連携ということになると高校の授業を自習にして来てもらっているとか一方の課題もだんだんはっきりしてきましたので、保護者への説明の努力もしていただいているんですが、もっともっと保護者に年間を通して切り込むような説明とかがいろいろあると思います。例えば学期に1回、中学校3年生や2年生の保護者にしっかり参加を促すような形の取り組みをしていただくと、保護者の意識というのにも変えていかないと、もう今ほとんどが生徒の意識で、失礼な言い方になりますが、安易な決め方、先輩が通っているから、友達がいるからとか、これまた中学校の進路指導の課題にもなってくると。要するに保護者へ切り込んでいくような高校のご説明というようなものが、魅力をですぐ伝えていくようなことができないかなというふうに思っています。最後に、現在中学校の規模適正化、統合を進めています。教育委員会としては、1校が望ましいということを出して説明に歩いているんですが、なかなか保護者の理解を得るところまで行っていません。しかし時間がかかってもこれは進めていかなければいけない課題だというふうに捉えています。その時に、仮に1校になったときに、市内へかなりスクールバスを走らせなければいけなくなってくると思うんです。文科省も、通学時間は1時間以内が適当であるというようなことを打ち出していますので、本当にきめ細やかなスクールバスを市内全体に、走らすということになろうと思うんです。

その時に、高校生がそのスクールバスを利用できないか、これは企画部と話をしていませんが、今本多委員からもあったように、市内にありながら通学に不便な高校なんですよね。芸備線は以前からありますが、市外の方が通学がやりやすいというような状況があって、特に市の北部ですね高宮・美土里あたりはもう保護者が高校まで送り迎えしておられるような状況がかなりあるんですよ。そこはかなり細かく走らせる、中学生のスクールバスへ高校生も利用できるようになったら、例えば1便のところの2便にできるとか、部活との関係で2便を3便にできるとか、そういうような形でこれは教育内容ではありませんが、生徒保護者から見ると通いやすい高校、通わせやすい高校というような形のところに持っていけないかなと、今そんなことを中学校の統合とあわせて考えているということです。

## 上水流委員長

ありがとうございます。

## 本多委員

先ほどの永井委員の話に乗っかるような感じなんですけれども、中学生の保護者の方に吉田高校や向原高校の内容を伝えるってところで、中学校であればPTA総会の中で、パンフレットのカラーじゃなくても目につくような環境を作っていくっていうのも必要かなと、もしくは時間がとれれば10分でも15分でも説明する時間を設けていただき安芸高田市にはこういう形で吉田高校と向原高校ありますっていうのを、保護者の方々に知っていただく環境づくりを、各中学校でありPTA、PTAの理解が必要だと思うんですけれども、実際統合の問題・課題の話はあっても高校に関する話題がほぼないのが現状なので、そういったところを地域の市のPTAの会員の皆様にご覧いただくためにその資金を活用していくのも1つの手段かなと思いました。

## 永井委員

これ高校の課題というよりも義務の課題、中学校がどういう進路指導するかという、そこら辺を考えてやらないといけないと思います。

## 上水流委員長

永井委員から心強いお言葉をいただいたかなと思っております。最後の交通はまさしくそういうふうになっていくと良いなと思いますし、先ほど言いましたけど5秒で掴むようなフレーズっていうのがありましたが保護者や中学生に伝わるようなフレーズっていうのも必要ですし、それを説明する場所っていうのがまだまだあるんだよってことがちょっと伝わってきました。大学も一応いろんな考え方があって、大学教員がいろんな高校に県外を含めて回っていくってこともしています。高校の先生から教員来てくださってという形で、事務方じゃなくて教員来てくださってと言われるんですけど、知られてないと塩対応で悲しくなって帰ってくるってこともあるんですけど、また違う大学はですねアメリカなんかもそうだしちょっと影響もそれっぽくなっていますけど、やっぱり生徒集めっていうのはすごくプロの人がやっていてやっぱり大学のPRとか含めてやっていくっていうその教員が片手間にできることじゃないよみたいな話もあるんですよ。そういうふうなことを考えたら先ほどその5秒でちゃんと使う言葉があって、テキスト進めてきて、そう魅力的に中学生にとか保護者に説明できるっていうことは、それはそれですごい特殊な能力だと思います。そこら辺のあり方っていうことも含めて考えていく、今までのような形が良いのか、いろんな今補助をいただいている中で、または地域おこし協力隊方が来られる中で、高校の持っている魅力、魅力はすごくいろんな形で高校さん作られていると思っていますので、それを伝えていくようなところをもうちょっとやっていくべきなんだと、今最後の話を聞きながら改めて思った次第です。SNSはマラソンですけど、そういう意味でいうとPR活動もマラソンなんだと改めて思いました。

ちょっと時間過ぎましたけれども本日は以上とさせていただきますと思います。また次回ですね、これらをまとめて今後の取り組みってことを決めてですね来年度以降の体制を作っていくところやっていきたいと思います。それからちょっと委員の中から出てきたのがですね、毎回ちょっとこういう会議ばかりでどうなんだろうかと、委員同士が交流するような形があってもいいんじゃないかということで、もう2年間の最後の締めとして、お弁当食べるような感じが取れれば良いなと思っています。例えば、11時30分までに終わって11時30分からご飯を食べるとかですね、ちょっとそんなことができれば良いなと思っています。事務局とそんな話をしているので、またそれも含めて改めて提案させていただきたいと思います。私の方からは以上です。

## 事務局

熱心に議論いただきましてありがとうございます。本日いただきましたアイデアを取りまとめて、次回はですね3月に開催したいと思います。また、委員の皆様と調整をさせていただいて、正式な日にちを決定したいと思います。本日はどうもありがとうございました。